

「おはなしを聞くこと 語ること」

講師 茨木啓子氏

《プログラム内容》

A 10:00~12:00

【大人のためのおはなし会】

プログラム

1. シェヘラザード
2. 星のさだめ
3. (朗読) ものいう鳥

『子どもに語るアラビアンナイト』

西尾 哲夫/訳 茨木啓子/再話 こぐま社



- ・講師とアラビアンナイトとのかかわりの経緯
- ・子どもと本をつなげることについて
- ・「語ること」と「朗読すること」についての講師の考え方
- ・おはなし会の際に子ども達が発した言葉の紹介—子どもたちとの様々なエピソード—

《質疑応答》

- ・どのような本を選んだらいいのか？(学年別)→ブックリスト・勉強会の利用
- ・本(紙芝居を含む)の読み方に関する質問→字を読むのではなく、物語を読むこと。
- ・講師は子どもと本をどのようにつなげていくため、どのような工夫をしているのか？

★参加者それぞれからでた上記のような具体的な質問にたいし、講師からは経験談を絡めたわかりやすい言葉でアドバイスを頂いた。

B 13:00~15:15

【詩の朗読】

『ライラックの枝のクロウタドリ』

ジェームズ・リーブス / 間崎ルリ子訳 こぐま社



【子どもたちにおはなしを語ること 詩を読むこと】

- ・詩とはなにか。
- ・詩を読むことで、子どもたちの中に何がおきるのか？
- ・詩を通しての子どもたちとのエピソードの数々

《質疑応答》

- ・詩を読む際の、意識すべきことは？→その詩のもつイメージを見せること。
- ・子どもたちにおすすめの詩の本は？→一冊の本ではなく、ひとつひとつの詩を選びとること。
- ・具体的なプログラムのたて方(1~2年生)→おはなしを2つ位入れたプログラムで行う。
- ・詩を読む際に、わかりにくい言葉を子どもたちにどう伝えるか(そのタイミング)→ケースバイケースで。
- ・創作・昔話を含め、おはなしの選び方に関する講師の経験談→自分が好きな話を選ぶこと。
- ・声の出し方について→一番末席の人にまで声が届くよう、意識して声を出す。

★ゆったりと詩を読んでもらうことで、詩がいかにも、人の心に豊かなひろがりのある世界をみせてくれるのかを参加者全員が体験した。この体験を通じて、本のみならず、詩と子どもが出会う場を作っていければと感じた。